

物語を読むこと

ポイント

○物語を読み、場面の展開や登場人物の心情の変化をとらえましょう。

問題

◇ 次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

『白という名の犬は、黒が犬殺しにやられたあと、逃げるよう^に、今いる路地へやってきました。』

「きゃん。きゃん。助けてくれえ！ きゃあん。きゃあん。助けてくれえ！」

白は思わず身ぶるいをしました。^①この声は白の心の中へ、あの恐ろしい黒の最後を、もう一度はつきり浮かばせたのです。白は目をつぶったまま、もと来たほうへ逃げ出そうとしました。けれどもそれは言葉どおり、ほんの一瞬の間のことです。白はすさまじいうなり声をもらすと、きりりとまた振り返りました。

「きゃあん。きゃあん。助けてくれえ！ きゃあん。きゃあん。助けてくれえ！」

この声はまた白の耳には、こういう言葉にも聞こえるのです。

「きゃあん。きゃあん。臆病^{おくびょう}ものになるな！ きゃあん。臆病ものになるな！」

白は頭を低めるが早いか、声のするほうへ駆け出しました。

けれどもそこへ来て見ると、白の目の前へ現われたのは犬殺しなどではありません。ただ学校の帰りらしい、洋服を着た子供が二、三人、首のまわりへ縄をつけた茶色の子犬を引きずりながら、何かわいわい騒いでいるのです。子犬はいつしじょうけんめいに引きずられまいともがきもがき、「助けてくれえ」とくり返していました。しかし子供たちはそんな声に耳をかすけしきもありません。ただ笑ったり、どなつたり、あるいはまた子犬の腹^{はら}を靴^{くつ}でけつたりするばかりです。

白は少しもためらわずに、子供たちを目がけて吠えかかりました。不意を打たれた子供たちは^②驚いたの驚かないのではありません。また実際白のようすは火のよう^に燃えた目の色といい、刃物^{はもの}のようにむきだした牙^{きば}の列といい、今にもかみつくかと思うくらい、恐ろしいけんまくを見せて いるのです。子供たちは四方へ逃げちりました。中にはあまり^{*}狼狽したはずみに、道ばたの花壇^{かだん}へとびこんだのもあります。白は二、三間^{はん}追いかけた後、くるりと子犬をふり返ると、しかるよう^にこう声をかけました。

「さあ、おれといっしょにこい。お前の家まで送つてやるから」

物語を読むこと

名前

学習日

6—①

白はもと来た木々の間へ、まっしぐらにまた駆けこみました。茶色の子犬もうれしそうに、ベンチをくぐり、ばらをけちらし、白に負けまいと走って来ます。まだ首にぶら下がった、長い縄を引きずりながら。

〈芥川龍之介「白」より〉

(注) 狼狽^{ろうざい}：うろたえること。

(1) — 線①「この声」とは、だれの声ですか。本文中から十六字で書きぬいて答えなさい。

(2) — 線②「驚いたの驚かないのではありません」とは、どういう意味ですか。次から最もふさわしいものを選び、記号で答えなさい。

ア 全く驚きませんでした。

イ 少しは驚きました。

ウ とても驚きました。

エ 驚いたかはわかりません。

--

(3) 本文に書かれている内容と合っているものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 白が助けを求める声を聞いてかけつけてみると、子供たちと子犬が楽しそうにじゃれ合っているだけだった。

イ 子供たちは、白にむかって臆病ものになるなどさげび、白をおこらせてわざとけんかになるように仕向けた。

ウ 白は、子犬を子供たちの手から守つてやると、まだ首に縄をつけたままの子犬を家に送り届けるために駆け出した。

エ 子供たちがいなくなつた後、白は子犬をしかりつけ、にげる子犬を追いかけてもうぜんと木々の間をぬけ、ばらをけちらして駆けていった。

--

物語を読むこと

問題

解答	アドバイス
<p>(1) 首のまわりへ縄をつけた茶色の子犬 ウウ</p> <p>(2) 首のまわりへ縄をつけた茶色の子犬 ウウ</p> <p>(3) 首のまわりへ縄をつけた茶色の子犬 ウウ</p>	<p>(1) このあとの本文中で、「ただ学校の帰りらしい、洋服を着た子供が二、三人、首のまわりへ縄をつけた茶色の子犬を引きずりながら、何かわいわい騒いでいるのです」と、この場面を説明している部分があります。ここから十六字で「首のまわりへ縄をつけた茶色の子犬」を書きぬきます。</p> <p>(3) 白は茶色の子犬を助けたあと「さあ、おれといつしょにこい。お前の家まで送ってやるから」と言って、子犬を家まで送り届けてやります。</p>